

<第 90 回 HSE セミナー 講演内容>

■テーマ：「患者・薬害被害者の立場から、薬剤師に望むこと」

■講師：花井 十伍 氏（「全国薬害被害者団体連絡協議会」代表世話人 前医協委員）

今年早々に業界を揺るがした「偽造薬」問題。薬剤師そして薬局に対して世間が不信感を募らせたことは言うまでもない。同問題に対して現役中医協委員でもある講師は「商人のような薬剤師は要らない」とコメントを出している。薬害被害者という経歴を持つ講師だからこそ、その言葉の意味は重く、薬剤師に対する期待も大きい。それは中医協総会での各コメントにも表れている。「対物から対人」と言われているが、いま一度薬剤師の職能を考え、やるべきことを見つめなおす時代に来たのではないだろうか。目先の報酬を追うと、薬局の姿が消えていきそうである。

<講師紹介>

1962 年長野県に生まれる。同年血友病と診断され、血液製剤の無い時代からクリオプレシピテート製剤、濃縮製剤へと血液製剤の技術革新を体験しながら育つ。輸入血液製剤により HIV に感染。1994 年大阪 HIV 薬害訴訟原告団加入。1997 年から、大阪 HIV 薬害訴訟原告団代表。1999 年から「全国薬害被害者団体連絡協議会」代表世話人。2000 年「ネットワーク医療と人権 (MERS)」設立、同年から理事。2003 年薬事・食品衛生審議会血液事業部会委員、同年同部会運営委員会委員。2004 年医薬品医療機器総合機構運営評議会委員。医薬基盤研究所運営評議会委員。2011 年-2017 年中央社会保険医療協議会委員。2015 年厚生科学審議会再生医療等評価部会他

■テーマ：「医療制度改革、医療・介護同時改定に向けての病院・診療所の取り組みの実際」

■講師：長谷川 均 氏（株式会社ルーセント 代表取締役）

2025 年に向けて動いているのは薬局だけではない。医療介護総合確保推進法により「地域医療構想」の策定が求められた。適切な場所に適切な医療体制を整備することが掲げられ、多くの都道府県でベッド数の削減が目標付けられている。また、地域の病院を守るべく医療ホールディングスというべく「地域医療連携推進法人」の設立がスタートした。処方元の経営環境が大きく変化をしてきている。個人クリニックの処方元は、医師の年齢が影響する「有限的」なものである。だからこそ面に流れやすい病院の動向を知り、対策を練ることが必要である。変化に対応しなくては生き残ることはできない。その変化とは「情報」すなわち「知る」ことから始まる。

<講師紹介>

昭和 53 年 医療法人真正会入職。事務局長、専務理事を歴任。平成 21 年 株式会社ルーセントを設立、現在に至る。株式会社 MWL 研究所取締役、株式会社ホスピタルマネジメント研究所取締役、NPO 法人医療を支える人づくりの会理事、川越市教育委員会・教育委員、ホスピタルマネジメント研究会代表、日本病院管理学会会員、日本経営マネジメント学会埼玉支部理事、日本医業経営コンサルタント協会地域包括ケア分科会委員

■テーマ：「多業界の成功事例に学ぶ在庫管理の基本」

■講師：岡本 茂靖 氏（在庫管理改善支援センター 代表）

日本を代表する流通業者「ヤマト運輸」が大苦戦をしている。その背景に「小ロット・頻回・不在配送」があるらしい。私たちの業界にも当てはまるのではないだろうか。医療業界における流通は「医薬品卸」が担っている。「急配送・返品」など疲弊している声が聞こえてくる。連続薬価改定に向けた社内の環境整備がいま求められている。面対型への取り組みにより、欠品は致し方ない部分はあるが、「欠品＝機会損失」であることも忘れてはいけない。「在庫を減らすと利益が出る」という都市伝説に騙されてはいけない。時代は共存共栄に向かっている。個々の薬局の取り組みが医薬品卸を支えることにつながる。医薬品卸なしの薬局経営はありえない。

<講師紹介>

住友重機械系列メーカーにて生産管理を担当。在庫管理の上流から下流までのほとんどを経験。改善活動においては、海外においても、発注から在庫管理までの仕組みを全くお金をかけず知恵と工夫だけで構築、欠品を大幅に削減した実績を持つ。独立後は、在庫管理アドバイザーとして在庫の 7 つの法則と岡本式 3 ステップ在庫管理理論に基づき、在庫に関する相談や仕組みの構築やコンサルティング活動に従事。普遍的な原理原則と基礎の徹底を重視するとともに、実務経験者としての視点で運用面から分かりやすくシンプルで本質を追求した姿勢を貫いている。